

事業計画書

事業名	廃校活用プロジェクト SakuPACフェスin旧春日小 ～廃校を未来につなげよう！		
実施箇所	旧春日小学校		
実施期間	事業開始予定年月日	2018年	07月 06日
	事業終了予定年月日	2018年	12月 31日
	<p><事業の目的及び達成目標></p> <p>「学校は地域の核となる存在」と言われており、学校は地域の人々のつながりを保つためにも、とても重要な存在です。地域社会の中で、学校は、子どもの学びの場以外の側面も有しています。学校に関わることを通して、地域の大人が成長する場（大人の学びの場）にもなりますし、学校が地域の活動拠点となることで、地域コミュニティが結びつきを深める場（地域コミュニティの核）にもなります。</p> <p>近年、佐久平駅周辺地域では、生活の利便性から2005年から2017年にかけて約3,000名もの人口が移り住む等、人口が増加しています。佐久平浅間小学校を中心に、多くの子ども達が小学校へ通っており、地域と人々のつながりも多く、大きな可能性を感じさせられます。</p> <p>一方で、佐久平を取り囲む周辺各地域では、上記の12年間で約500名の人口が減少し、特に望月地区では、約1,500名の人口が減少しているのが現状です。結果として、若者の流出や少子化などの影響から小学校は統合され廃校になっています。廃校になることで、地域から子どもの声が消えるとともに、住民の喪失感が生まれ、地域の活力の低下につながる可能性があります。地域を活性させるために、廃校を何かしらの方法で活用し維持していく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>全国では、この20年間で約7,000校もの学校が廃校になっており、現存する4,000校のうち約2,900校、約7割の廃校が民間企業の工場やオフィス、福祉、宿泊施設など様々な用途で再活用されています。中には、年間交流人口が58万人にも達する施設になった事例もあります。そのため廃校は、眠った資源として、地域活性化にとって大きな可能性を持っています。</p> <p>そこで、佐久市にもある廃校の中で、人口減少が著しい望月地区において、数年間使用されていない旧春日小学校を維持し、さらに活用方法を見出すことができれば、眠った資源から地域活性化のための資源になるのではないかと考え本事業を企画いたしました。</p>		

事業概要

<事業内容>

日時：10月21日（日） 9：00～17：00

会場：旧春日小学校

対象者：佐久地域住民（主に佐久地域の児童とその保護者）

概要：

- ・地元住民の方、各種団体に協力をいただき、文化祭的な設えをいたします。
- ・地元住民の方、青年会議所並びに地域に携わる団体の方々に教室もしくは外部にて、1団体1ブースを担当していただきます。
- 親と子どもが一緒に作り上げるもの、または大人が懐かしみを感じ、自身の幼少期を子ども達に話していただけるような内容を企画し、各教室にて実施いたします。
- ・展示型、体験型等のブースを設置いたします。
- ・体験型ブースについては、1団体の体験時間は約45分程度。
- ・体験内容は各団体に一任しますが、時間内にできる適度な内容としていただきます。
- ・内容について（予定）
 - ミニ四駆ブース・・・親子で模型の車を組み立てていただきます。
 - ペイントブース・・・
模型をペイントしオリジナル性を出していただく。
 - ミニ四駆コースブース・・・
実際に走らせ親子で一緒に楽しみ
コミュニケーションを図ります。
 - 給食ブース・・・
佐久の食材を使用し、給食風のメニューを提供します。
- 佐久っ子かるた・・・佐久っ子かるたを使用したブース
- ※ブース出展団体（予定）
 - 佐久青年会議所、JA佐久浅間、もちづき総合型クラブ、
 - 他、飲食関係企業
- ・使用教室については、別紙資料1を参照。
- ・一緒に参加していただいている保護者へは、子どもと一緒に体験をしていただきます。
- ・学校は無邪気に遊べる場所と捉え、大人は童心に帰り、子供と同じ気持ちで参加できる内容にいたします。
（親子で共有された感情や経験は、関係性の向上と子供の能力向上に効果的であることから、親子間のコミュニケーションを深めるため）
- ・各団体のPRについての内容に目を通していただく事で、佐久地域のまちづくりについての知識を深めていただきます。各団体には自身の企業をアピールする為のチラシやポスターを企画ブース内において展示・配布していただきます。
- ・アンケートを実施し、今後の廃校の活用について意見を集約します。

<アピールポイント>

1) 廃校を利用すること

- ・今後の廃校再活用に対する方向性の考察ができます。
- ・廃校（旧春日小学校）の存在を地域住民の方々に周知することができます。
- 学校に直接関わりのある親子に参加していただくことで、母校に対する意識変革をしていただける。⇒郷土愛向上
- ・廃校の活用方法をアンケートにて抽出することで、今後の活用について幅広い可能性がでてくる。（下記事例を廃校活用の可能性として記載事例）

※別紙企画書（案）、添付資料参照

年間計画	4月	計画・調査
	5月	↓
	6月	各種依頼
	7月	準備期間 広報・募集
	8月	↓
	9月	↓ ↓ 校舎清掃・片づけ
	10月	事業実施 ↓
	11月	会場清掃・報告等
	12月	決算
	1月	
	2月	
	3月	

<p>活動することで期待される地域や社会への具体的な効果・成果 (事業の対象者・参加予定人数も記載)</p>	<p><「公益性」の視点> 事業対象者：佐久地域住民800名 (主に佐久地域児童及び保護者)</p> <p>アピールポイントにて記載。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の廃校再活用に対する方向性の考察ができます。 ・廃校(旧春日小学校)の存在を地域住民の方々に周知することができます。 <p>学校に直接関わりのある親子に参加していただくことで、母校に対する意識変革をしていただける。⇒郷土愛向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃校の活用方法をアンケートにて抽出することで、今後の活用について幅広い可能性がでてくる。(下記事例を廃校活用の可能性として記載事例) <p>※別紙企画書(案)、添付資料参照</p>
<p>活動を継続するための取組や考え方 (資金面、人材等)</p>	<p><「自立性」の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他団体や地域の若者に協力していただき、廃校活用の方向性を理解していただき、協力者の人数によって、本会議所から実行委員会へ移管し開催の継続化を図る。 ・臼田地区の小学校統合による廃校に対し、臼田地区のみなさま、卒業生等に協力を依頼することで、数年後の活用方法の一助としていただく。 ・資金面は予算にもよるため、今後クラウドファンディング等の活用を検討。
<p>翌年度以降の活動内容概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブースの内容の充実化 ・臼田地区での開催
<p>事業の最終目標</p>	<p>継続的に旧春日小や今後廃校となる学校が持続的に活用されること。 全国各所では、過疎化による廃校活用事例は、宿泊施設や養護施設としての活用されている。春日温泉や春日溪谷など観光資源との連携や、長者原地区に関連する就農研修所としての利用など、地域に合った活用につながることを。</p>